

VE活動を通じた 魅力あるまちづくりへの貢献



首都高速道路株式会社 代表取締役社長 寺山 徹

■新たな挑戦

首都高速道路株式会社では、サステナブルな社会の実現と首都高グループの持続的な成長の両立を目指し、社会環境の劇的な変化に伴う課題に対応するため、これまでの中期経営計画にはない4つの基本指針を新たに掲げた『中期経営計画2024-2026』^{*1}を策定した。さらに、中期経営計画には6つの重要テーマを設定しており、多様化するお客さまニーズや首都圏の都市構造の変革、AI・情報通信等の新技術の進展などに対応していく所存である。ここでは、重要テーマにある「安全・安心の追求」「都市・まちづくりへの貢献」とVE活動の関係を紹介したい。

首都高速道路約327kmのうち、2014年度に事業化した約64kmと、新たに更新が必要と判明し2024年1月に公表した約22kmを加えた計約86kmの更新事業を行っている。多摩川渡河部の高速大師橋の架け替え工事では、約300mにわたる架け替え部の脇に新設橋を組み立てておき、2023年5月末から約2週間の通行止め期間中に既設橋と新設橋を河川上で横スライドさせて新旧橋を交換、架け替えた。

日交通量8万台もある高速道路を約2週間通行止めするにあたり、2019年のVE活動において、効果的な通行止め広報について検討を行った。通行止め広報を機能定義し、機能別のコスト分析をするなど、広報活動を行う上での重要な方針を立案することに貢献し、当初懸念された大きな混乱なく架け替えを行うことができた。

また、日本橋区間地下化事業は、1963年の開通から半世紀以上が経過した首都高都心環状線の日本橋川上空を走る区間を更新する事業であるが、単なる架け替えではなく、日本橋川周辺の再開発等のまちづくりと一体となって地下化構造へ造り替えることで、さらなる地域の魅力向上に貢献しようとするものである。

すでに日本橋地下化事業に関するVEは、JR交

差部の都心環状線撤去検討など2件のVE活動を実施しているが、まちづくりと連携した更新事業に取り組むことで都市構造の変革をもたらし、首都東京のポテンシャルを活かした魅力的な都市空間の形成に貢献するため、VE活動を通じてさらなる付加価値向上へのチャレンジを推進していきたい。

■首都高におけるVE活動の意義

弊社のVE活動約20年を通して、大橋JCTのように首都高本体の事業を効率的に実施するだけでなく、都市環境・生物多様性への配慮等により付加価値の向上に努めてきた。

今後は、河川空間を活かした魅力ある水辺空間整備とまちづくりとの連携（日本橋地下化事業）、東京高速道路〈KK線〉の再生及び築地川周辺におけるみどりのプロムナード構想（銀座・京橋出入口付近の更新事業）など、VEがこれらの首都高事業推進だけでなく社会課題の解決・克服の一手段となって、魅力あるまちづくりに貢献するものと期待している。

（筆者は当会理事）

※1) <https://www.shutoko.co.jp/company/mmenterprise/>



図 日本橋区間の首都高撤去イメージ図